

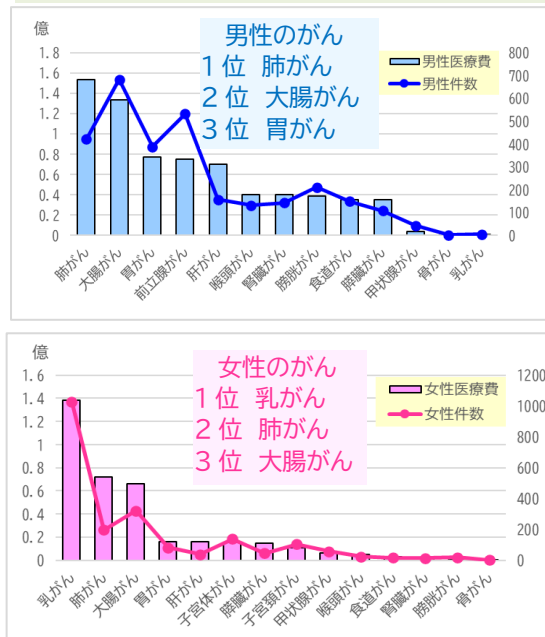
保健師だより



第 233 号
2022 年 8 月
神奈川県建設連合
国民健康保険組合
藤田

日本人が一生のうちにがんと診断される確率は2人に1人となっています。(平成30年全国がん登録データ)
コロナ禍においても定期的ながん検診はとても重要です。今回は令和3年度の神建連国保の保健調査結果と合わせてがん検診についてお知らせします。

男女別がんの医療費と件数(令和3年度神建連国保)



医療費で最も多いがん

神建連国保の医療費を病気別の内訳で見ると、がんによる医療費が最も多く、1回の診療にかかる費用も最も高額となっています。

がんが死亡原因の第1位

死亡原因をみると男女ともにがんが最も多くなっています。どの部位での死因が多いかを見ると、男性では肺がん、悪性中皮腫、すい臓がん、女性では腸がん、胃がん、肝臓がん、乳がん、白血病の順となっていました。

がん検診は定期的に受けることが重要です！

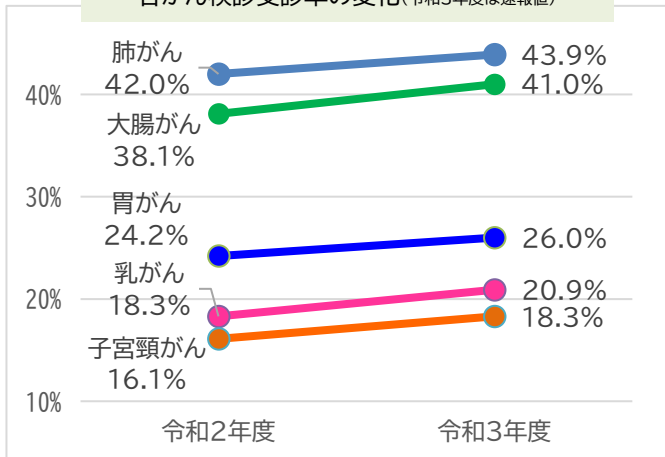
がんは発見できる大きさに限界があり、発見できる大きさから早期がんの状態に進むまで、たった1年～2年と言われています。定期的に受けることが重要です。

コロナ禍でもがん検診受診者が増えました！

神建連国保では毎年度無料で肺がん、胃がん、大腸がん、乳がん、子宮頸がんの検診を実施しています。(※胃がんと大腸がんは40歳以上)令和2年度はコロナ禍の受診控えで検診受診者が減っていましたが、右図の通り令和3年度は以前の受診状況に戻りつつあります。

これまで受けていなかったという方も、ぜひがん検診を毎年の習慣にしましょう。

各がん検診受診率の変化(令和3年度は速報値)



指摘があった時の二次検査も忘れずに！

がん検診はがんの疑いがあるか否かを調べる検査で、疑わしい場合は精密検査となります。症状がないからと自己判断するのはとても危険です。自己判断で早期発見の機会を逃さないようにしましょう。精密検査は保険診療の取り扱いですので、健康保険証と健診結果票を持参して医療機関を受診しましょう。受診する外来は下記も参考にしてください。

- 肺がん検診(胸部レントゲン) → 呼吸器外来
- 大腸がん検診(便潜血検査) → 消化器外来(下部消化管)
- 胃がん検診(胃バリウム検査) → 消化器外来(上部消化管)
- 子宮頸がん検診(頸部細胞診) → 婦人科外来
- 乳がん検診(マンモグラフィーまたはエコー検査) → 乳腺外来

